

日付：令和8年3月13日(金)
時間：10時から11時30分
場所：けやきルーム

参加者：梶野さん、森田さん、村澤さん、伊藤さん、野崎さん、安東さん、中西さん、亀田さん
学校：小柳校長、板澤副校長、青木主幹教諭、中願寺主任教諭、細川主任教諭、濱田主任教諭
傍聴者：なし

1 校長挨拶

今年度最後の学校運営協議会。1年間学校を支えていただいた。皆様のお力添えあつてのこと。先月の研究発表会にもたくさん応援に来ていただいた。2年間の集大生を教職員一丸になって発表することができた。今日は学校評価の1年間の振り返りをご報告したい。忌憚のない意見を寄せていただき、来年度の前原小学校につなげていきたい。もう一つは、初めての「熟議」を行いたい。不登校を題材に、学校、家庭、地域がどのような役割を果たしていくのか、また学校運営協議会としてどのように考えていくのか熟議を行いたい。

本校には8名程度の登校しぶり・不登校児童がいるため、「不登校」について前原小学校も避けては通れない。楽しく居場所のある学校づくりを心がけていたが、問題は残っている。熟議を通して、できることを探し、学校としても知恵を拝借したい。

2 学校評価報告【教務主任：中願寺】

<第2回学校評価アンケートの分析>

学校評価担当者が集計分析した資料を配布しているので参照していただきたい。

※前原小ホームページに「学校だより特別号」として配信

①児童 ②教員 ③保護者について抜粋して紹介していく。

- ・肯定的回答(A+B)、否定的回答(C+D)の推移をお伝えしていく。
- ・第1回と2回で児童数が増えているので、%だけでなく児童数の推移も読み取ってほしい。

①児童

- ・研究では、朝学習でも反復練習をしている。前原小では学期に1回、東京ベーシックドリルという習熟度の度合いを確認し、苦手単元を分析するテストを実施している。友達の話の聞こえようとしている児童、意見を伝えようとしている児童の数が1→2回にかけて増加している。また、ベーシックドリルの結果も上昇している。
- ・生活では、「4 あいさつ」について紹介したい。すべての項目が高い数値として出ている。児童によるあいさつ運動の実施により、児童の挨拶に対する意識が向上し、結果として現れた。
- ・特活では、たてわり班活動について着目した。学校目標「思いやり」に即して教育活動の工夫をしている。たてわり班活動を楽しく工夫しているかについては、どの項目も上昇している。また今年度初の取り組みである「みんなの日」についても、良い成果が現れていた。

②教員

2月13日発表会の成功につながった背景として、研究に関する項目の「授業改善の取り組み」について否定的回答が0になり、浸透したことがうかがえる。生活面では清掃活動や整理整頓に課題が見られる。次年度に向けて指導法の改善について検討中である。

③保護者

縦棒グラフでは、家庭での学習時間の実態が明らかになっている。赤い数値は30分であり、一番高い結果となっている。各学年×10分程度の内容の課題を出しているが、集計結果からはもうすこし課題の量が必要であると考えられる。

最後に、保護者アンケートの回答率が第1回の35.7%から24%に低下している。個人面談の声掛け以外に、より回答率を上げるための手だてが必要である。保護者の協力を元に、よりよい学校づくりへとデータを活用していきたい。

CS 梶野：今の議題について、ご意見はありますか。

- CS 亀田：算数の学習に力を入れていたとのことだったが、成果に結びついていて、次年度も継続するのか
 →来週の研究全体会（最終）で、今年度のまとめをしつつ次年度の方針を固めていく。
 →得意なものを伸ばすと児童も力を付けやすいので、ぜひ今年度の成果を生かしてほしい。
- CS 中西：家庭学習のアンケートには、習い事も含めているのか。家庭によって早く終る児童もいれば時間のかかる児童もいるので、一律の宿題にさらなる工夫が必要ではないか。
 →学年によっては自主学習ノートなどで軽重を付けることもある。個に応じた宿題配信をしていきたい。
- CS 安東：家庭学習を提出していない児童への対応は、どうなっているのか。
 →学年、学級によって指導の仕方があるが、中昼休みに取り組みさせるなど何かしらの対応はしている。
- CS 森田：体育の成果について高学年が否定的回答が多い背景は何なのか。
 →学年が上がるにつれて外遊びが億劫になる実態があるので、今年度は持久走旬間や縄跳び旬間などで体を動かすことへの意欲向上を啓発している。
- CS 梶野：他にご意見は、ありませんか。
 意見が無いようなので、この議題について承認いたします。

3 熟議 【テーマ：不登校について】

※熟議の前に質問

- CS 森田：本校の不登校児童の背景は、どうなっているのか。
 ⇒学業不振 体調不良 集団行動が苦手→フリースクールへ（友人関係は作れるが提出物や時間決めが苦手、感情制御が難しいなど） 学芸大学のもくせい教室の利用 家庭の都合 等
 →保護者は不登校児童の心情を尊重する姿勢を持つ方が多い。本校では空き教室がない、
 →ほぼ学校に来ていない児童は8名程度。高止まりで維持。登校しぶりは減ってきた。
 8人中2人が転校前から不登校が続いていた。最近増えているのは1年生の登校しぶり（門前で泣いてしまう、教室まで保護者同伴など）である。本校では給食（小金井は無料）だけでもいいので来てもらうこと。不登校の声掛けは「心のエネルギーが溜まるまでそっと待つ」方針でいる。他校で別室指導できる教室と支援員の予算があるものもあるが、前原小は空き教室がないので今年度は無い。来年度は空き教室ができるので、支援員が配置される可能性がある。【学校長より】

- CS 亀田：地域という項目があるが、どんなこと書けばよいか
 →地域として支えられることを考えてほしい

<<熟議・ABグループ報告>>

★熟議は、A、Bの2グループに分かれて行った。

【テーマ】「学校・家庭・地域は、それぞれどんな役割を担えるか。また、学校運営協議会として、今後何を大切にしていくか」

(1) 問いの提示

- ①「不登校の子供を支えるために、学校だけでなく、家庭や地域ができることは何でしょうか」
- ②「今日の話し合いを踏まえ、次年度、学校運営協議会としてどのようにしていくのか」

(2) 熟議の流れ

「学校でできること」「家庭でできること」「域でできること」を分けて意見を出す。

⇒その結果、学校運営協議会としてどのようにするのか。

(3) 個人思考（5分程度）

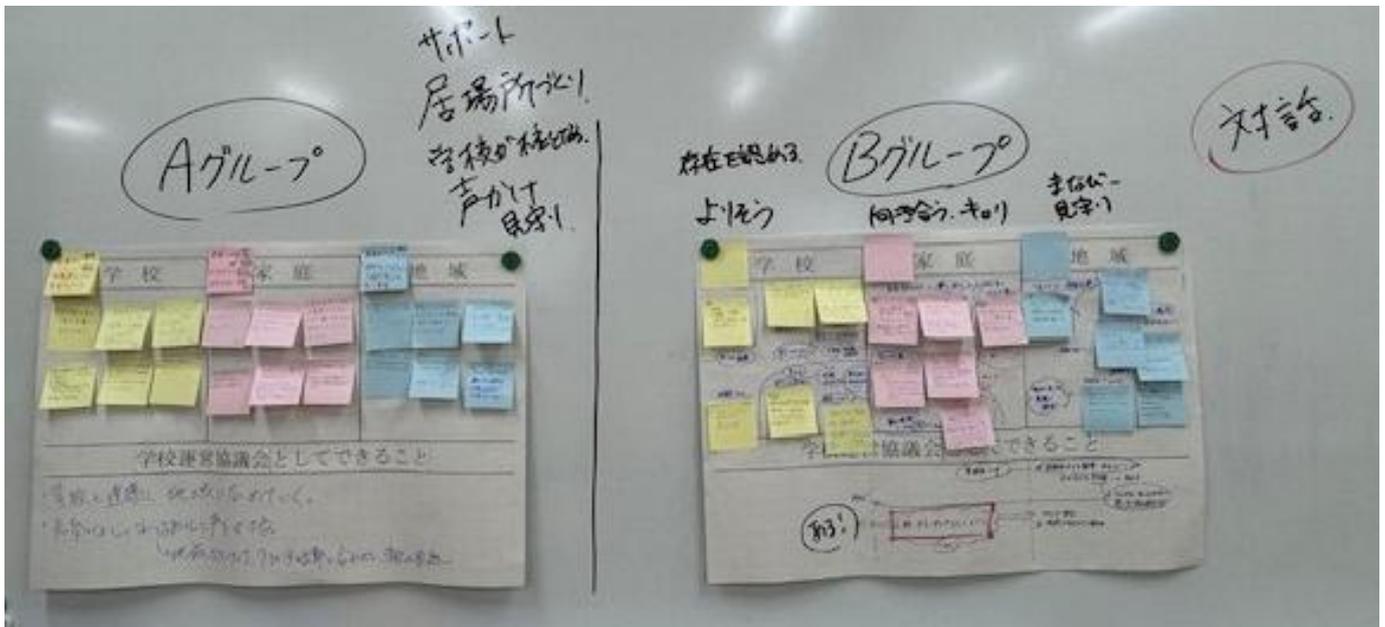
各自で付箋に考えを書く。

(4) グループ熟議（20分）

- ・参加者が混ざるようにグループを2つに構成する。
- ・模造紙に付箋を貼り、内容の整理を行う。
- ・各グループで学校運営協議会としてできることをまとめる。

(5) グループで話し合ったことを報告（5分）

(6) まとめ（3分） ※学校長より



<Aグループ>

- ・学校：学習サポート、居場所づくり、諸機関とつなぐ役割。学校が核となる。
 - ・家庭：子供のサポート、生活リズムなどの改善（目標設定等）、連携つながりをつくる。
 - ・地域：居場所づくり、「ご近所さん」としてのつながり、市への要望等。この3つが必要である。
- 学校運営協議会として、学校と連携して地域に広めていく。
 ○地域の方々に声を掛けて、地域ボランティア活動をする。

<Bグループ>

- ・学校：お休みしている児童や家庭に寄り添っていく。（面談、学習保障、居場所づくり等）
 - ・家庭：供の実態に向き合いながらも、向き合う距離や寄り添い方を工夫していく。
 - ・地域：学校の学習時間帯に登校できなくても、放課後子ども教室やまなび〜での来校を受け入れる。
- 学校運営協議会として、人材ボランティアリスト作りを行い、3者をつなぐ役割を目指していく。
 ⇒どの関りでも、対話が必要となる。

CS 梶野：今の議題について、ご意見はありますか。
 意見が無いようなので、この議題について承認いたします。

4 その他

- ・放課後子ども教室から
 三学期に入り、低学年の参加が増えている。1年生は20人以上。
 5年生の参加が継続して多い。高学年になっても外で体を動かしたい児童が多いのは嬉しいことである。喧嘩もするが仲良く過ごし、学校が好きだと感じる。月曜から金曜まで遊んでいる姿をご覧いただきたい。今年も一年間ありがとうございました。

5 事務連絡

○副校長より
 次年度もCSとして依頼しています。よろしくをお願いします。

令和8年	第1回学校運営協議会	5月21日(木)	10時	会議
令和8年	第2回学校運営協議会	9月15日(火)	4時間目	授業参観・給食試食・会議
令和8年	第3回学校運営協議会	12月11日(金)	10時	会議
令和9年	第4回学校運営協議会	1月23日(土)	8時40分	道徳授業地区公開講座・意見交流会
令和9年	第5回学校運営協議会	3月12日(金)	10時	会議